

## 東北関東大震災の被災者の皆様方へ

日本環境会議（JEC）を代表して、このたびの巨大地震によって被災され、貴重な生命を失われた数多くの方々に衷心よりお悔やみを申し上げます。また、避難され厳しい状況の中で日々を過ごされている皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。

皆様方は、必ずやこの未曾有の困難を乗り越え、今後の復旧・復興に向けての歩みを始められるものと信じておりますが、その際、環境研究に従事する私どももまた、微力ではありますが、被災地域の今後の復旧・復興に向けて、ともに尽力していく所存であることを申し添えさせていただきます。

2011年3月21日

日本環境会議（JEC）名誉理事長  
宮本憲一（大阪市立大学名誉教授・滋賀大学名誉教授）  
同 理事長  
淡路剛久（早稲田大学教授）  
同 事務局長  
寺西俊一（一橋大学教授）

### 付記：

東北関東大震災後のアスベスト二次被害に遭わないために、日本環境会議とも密接な連携をもっている「立命館アスベスト研究プロジェクト」の関係者から、以下の＜参考添付資料＞のとおり、「震災アスベスト緊急対策について」と題する呼びかけ文書が届いておりますので、ここに合わせて、お知らせいたします。今後、被災地への救援活動に入られる個人ないし市民グループ等の皆様には、ぜひ、参考にさせていただきたいと存じます。

~~~~~

### ＜参考添付資料＞

#### 震災アスベスト緊急対策について

未曾有の震災に当たり、救援や復旧にご尽力いただいていることに心から敬意を払います。

私達はアスベスト災害と震災アスベスト問題について国際的に調査研究をしているグル

ープです。阪神淡路大震災では地震直後と解体工事にあたり、アスベストが飛散し、この対策が遅れたために、直後には呼吸器疾患患者が大量に発生し、その後工事関係者の中に中皮腫（がん）の死者が出ています。

この経験から貴地域で解体工事が始まるにあたり、アスベスト防災について必ず実行していただきたい緊急な対策があり、以下に勧告いたします。

1. 震災直後と解体現場の周辺ではアスベスト飛散の完全防止は困難です。特に工事関係者は専用の防じんマスク着用を義務づけ、住民、ボランティアの方々には少なくとも一般マスクだけでも着用させるように手配すること。
2. アスベスト使用建物についての解体工事については、最低限、環境省「災害時における石綿飛散防止に係る取り扱いマニュアル」に従って応急対策をとること。
3. アスベスト使用建物が不明の場合には、1996年以前の建物には厳重注意をして作業を徹底すること。
4. アスベストの危険について工事関係者のみならず住民やボランティアに周知徹底すること。今後の追跡的な健康調査のために、工事関係者およびボランティアについては登録制度を設け、氏名・作業場所・作業内容等を記録すること。
5. アスベスト濃度測定について恒常的な定点観測をし、撤去現場での測定も随時実施すること。
6. 工事監督者や環境測定の専門家による安全確認の監視などの体制をとること。

なお、上記の詳細につきましては、『終わりになきアスベスト災害—地震大国日本への警告』（岩波ブックレット No. 801）を、ぜひ、参考にしてください。同書には、阪神淡路大震災や9・11のニューヨークの世界センター爆破事件の際のアスベスト対策とそれから得られた教訓にもとづく対策が書かれています。

立命館アスベスト研究プロジェクト

立命館大学政策科学部教授 石原 一彦

立命館大学政策科学部教授 森 裕之

大阪市立大学名誉教授、滋賀大学名誉教授 宮本 憲一

<連絡先>

〒603-8577

京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学政策科学部 石原 一彦

Tel : 075-465-7877 (政策科学部事務室)

E-mail : ishihara@sps.ritsumeit.ac.jp

~~~~~